

令和6年度 第1回 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：令和6年9月25日（水）10時から12時まで

ところ：南魚沼市役所 2階 小会議室

1 出席者

魚沼地域共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

阿部直実委員、風間勇人委員、高橋和利委員（欠席）、星麻衣副会長

○湯沢町

岡本奈緒委員、貝瀬健太副会長（欠席）、高橋淳夫委員（欠席）、笛木真理恵委員

○南魚沼市

上村真史委員（欠席）、関聡会長、田村定子委員（欠席）、湯本真弓委員

各市町職員

●魚沼市

事務局：企画政策課 渡邊係長

●湯沢町

事務局：企画観光課 平賀係長

●南魚沼市

片桐総務部長

事務局：見留企画政策課長、小林行革主幹、由良主任

2 議事

【1】開会 （進行：見留企画政策課長）

【2】挨拶 （片桐総務部長）

【3】会長及び副会長の選出 （進行：見留企画政策課長）

（はじめに、各委員と事務局の出席者から一言ずつそれぞれ自己紹介をいただく）

事務局）魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第5条により、会長と副会長は委員の互選により定めることとなっている。事務局案としては、この懇談会設置当初から会長、副会長をお務めいただいている南魚沼市の関聡委員に会長を、魚沼市の星麻衣委員、湯沢町の貝瀬健太委員に副会長を引き続きお願いしたいがいかがか。なお、貝瀬委員は本日欠席の連絡をいただいているが、事務局案として副会長に指名させていただくことについては、事前に了解をいただいている。

委員）異議なし。

会長：関 聡 副会長：星 麻衣 副会長：貝瀬 健太 を選任

(会長挨拶)

関会長) 先ほどの総務部長の挨拶でも触れていたが、人口減の状況で1つプラスの話をすると、20年前くらいは、「高給取りになるために首都圏で働きなさい」と親から言われることが一般的で、たぶん教育もそうだったと思う。地域愛を押し出すような教育に変わったのは10数年前くらいだったと思うが、その効果が出始めてきていると感じている。Uターンで、私の会社に来た従業員も多くなり、地方で働きたいという大学卒の若手の入社も増えてきた。また、まちづくり推進機構でも、若手に向けて働き方を押し出すようなイベントを多く実施しており、そういった取組が実を結び地域の光になっていると感じている。

今の子ども達が大きくなる頃に、人口が半減して「この地域では暮らせない」と思われるようでは元も子もないので、少しでも皆様から意見をいただきながら、より良い地域を残せたらよいと思っているのでよろしく願いしたい。

星副会長) 事前に送付された資料を見た時に内容が難しいと思った委員の方もいらっしゃると思うが、この懇談会は、私が出席してきた会議の中でも委員から多くの意見が出る活発な会議という印象を受けている。様々な分野の方が集まっている会議なので、是非、「こうなったら良いな」、「こうしたらどうか」といった思いをたくさん発言いただきたい。

【4】議事 (進行：関会長)

関会長) 議事4(1)については、共生ビジョンにおけるワーキンググループの今年度の事業計画と進捗状況の報告になる。それでは事務局から説明を求める。

- (1) 令和6年度の各ワーキンググループの事業計画について (説明：由良主任)
使用資料・・・資料1、資料2、参考資料

関会長) ワーキンググループの事業計画について、意見・質問はないか。

委員) 令和6年度の実施計画について、意見等が出た場合は、1年後、2年後の事業計画には反映されることはあり得るのか。

事務局) 担当のワーキンググループには、この会議で出た委員意見を共有し、意見に対する回答を求め、委員にフィードバックすることとしている。

委員) 定住自立圏の連携事業として、U・Iターンによる人口の流入増加に関する取組が最も重要な部分になると思う。私も魚沼市の様々な会議体に所属しており、その中の魚沼ものづくり振興協議会では、独自の景況調査を実施しており、人材不足などの課題が毎年あがってくる。

また、魚沼市もU・Iターンに関する事業に取り組んでいるが、「南魚沼市に帰ってきたが就職先が魚沼市である場合、魚沼市でU・Iターンに関する助成は受けられないのか」といった問い合わせを受けたことがある。首都圏へのアクセスの利便性などから、(魚沼地域定住自立圏における)中心市の南魚沼市に戻ってくる人は多いと考えている。南魚沼市の負担が大きくなるかもしれないが、魚沼市や湯沢町に就職した場合でも補助する仕組みを検討いただけないか。

事務局) 昨年度の共生ビジョン懇談会でも人材不足に対する対策が必要との意見が出た経緯もあるが、慎重な検討が必要だと思う。今の提案をどのワーキンググループに共有し、回答を求めるかの確認も必要になるが、実現性の可否などについて委員にお返しできるようにしたい。

片桐部長) 定住先と勤務先の市町村が異なるといった状態はあり得ることなので、(補助金等の対象として) 広く認められるような考え方になっていけばよいと思うが、基本的には定住した自治体で多くのメリットが得られるものと考えており、定住した先の自治体に対象を広げることが基本だと思う。国や県の補助金が入っている事業があるため、制度上、委員の意見が反映できるかの確認が必要となるが、検討させていただきたい。

関会長) 定住に関連するものとして、定住促進事業で「若者向け就職ガイダンス」を実施しているが、何年か前に子ども向けに、「リアルキッズニア」を実施しようということで、地域の働き方体験のイベントを開催した。想定は100人くらいだったが、400~500人くらいの子どもの参加した。就職ガイダンスだけでは体験を通さないため、働き方を実感するのは難しいと考えている。

「リアルキッズニア」で働き方を体験できるブースをたくさん設けたことが効果的だったと感じ、南魚沼市からの委託で、今年10月14日にまちづくり推進機構が事務局となって「お仕事体験フェア」を開催するが、すごく良い取組だと思う。私も学生向けにプレゼンをすることがあるが、15分程度では伝わりきらない。南魚沼で「リアルキッズニア」が成功していき、2市1町で共有できれば子ども達に良い働き方のイメージをつけてもらえると思う。

星副会長) 魚沼市の今年の「二十歳の集い」では、魚沼ものづくり振興協議会が作成した素晴らしい冊子が配布されていた。例えば、そのような冊子を南魚沼市や湯沢町でも見てもらう機会があれば、圏域内の会社を知る機会につながると思った。魚沼市でも「リアルキッズニア」のような取組は行っていたが、なかなか継続していないようなので、できれば復活してほしいと思っている。子ども達が参加できるイベントの機会が多いほど、情報を得られる人数も増えると思う。

片桐部長) 魚沼ものづくり振興協議会の冊子は、企業紹介がメインのものか。

星副会長) 企業がどういった製品を作っているのかといった紹介がメインだったと思う。

片桐部長) 先ほどの意見にも通ずるところがあると思った。圏域の企業が協力して企業紹介をする合意形成を図り、例えば、各市町の「二十歳の集い」で冊子を持ち寄るといったことでも良いと思った。

関会長) 他に意見がないようなら、次の議題に移らせていただくがよろしいか。

(委員同意)

(2) 第2期共生ビジョンの変更(案)について(説明: 由良主任)
使用資料・・・資料3

関会長) 共生ビジョンの取組に関する変更があったものは、「地域完結型を目指す医療・介護・福祉の連携推進事業」と「圏域観光情報窓口事業」の2点で、その他は総事業費の更新などの軽微な変更となる。これについての意見・質問はいかがか。

委員) 南魚沼市では「介護人材確保緊急5か年事業」が「地域完結型を目指す医療・介護・福祉の連携推進事業」の取組の一部ということかと思うが、令和5年度の実績は把握しているか。

事務局) 手元に資料がないため、担当のワーキンググループに確認し、委員へ議事録を送付する際に支給状況をお知らせする。

【南魚沼市「介護人材確保緊急5か年事業」の令和5年度実績】

区 分	人 数	支援金額
介護人材新規・移住定住就職支援金	13人	2,600千円
介護人材カムバック支援金	8人	1,600千円
介護人材ケアマネエール支援金	39人	7,800千円
介護人材ケアマネスタートお祝い金	1人	200千円

委員) 一時的に支援金をいただいても、医療・介護・福祉の職種の基本給は低いことが共通する課題だと思っている。私も福祉関係の仕事に従事しており、福祉関係者と一緒に仕事をしていると、「この給与でこれだけの仕事をしているのか」と思うことが多々あるので、基本給が上がるような取組があるとよいと思った。

片桐部長) 南魚沼市では施設改修に係る経費への補助金も出しており、その補助金の余剰分を人材確保に還元することを含めて取り組ませていただいている。

委員) 社会福祉協議会でも介護事業を行っており、介護人材が入ってもすぐに辞めてしまうなど、人材確保が課題となっている。サービスの利用希望者がいても、人材の供給が不足しており、介護事業者が撤退せざるを得ないといった状況も起きている。これから75歳以上の人口割合が増えていく中で、魚沼市だけではできないことを自治体同士で連携してもらえるとよいと思った。

また、小さい時から福祉に対する意識を高めてもらうために、子どもに対する福祉学習を実施しており、先ほどの話にも出た企業紹介にも参加し、仕事の内容を伝え、福祉の仕事に興味を持ってもらい、将来、福祉の仕事に就いてもらうためのPRやボランティア募集などに取り組んでいる。職場体験に来た高校生から、福祉の職場を選んだ理由を聞くと、学校から割り当てられたからといった回答もあり、(職場体験を通して学生に直接PRするのは) 難しいと感じた。少しでも仕事に触れることが仕事への興味につながると思うが、現状では人材が不足していることに対して、福祉教育や子ども達の人材育成をどのように進めていくかをもう少し考える必要があると思った。

もう一つ、図書館についての質問になるが、それぞれ相互利用の協定を結んでいるため、魚沼市在住でも南魚沼市に蔵書があれば取り寄せることが可能だと承知している。例えば、通勤や仕事の移動時間などの合間に図書館に寄って借りた本を、自分の住む自治体の図書館で返却できる体制があるとよいと考えている。図書館のカードは自治体ごとに異なっているが、2市1町で同じカードにすればそのような対応ができると思ったがいかがか。

片桐部長) 人材確保については、採用してもすぐに辞めてしまうことや、募集しても応募がないといった事業所の課題はよく耳にするので、子どもの時からの福祉学習は重要だと思う。「その職業に就いてみたい」と思う気持ちが重要で、そこにフォーカスするような工夫はよいことだと思うし、嫌々来た子ども達でも「この仕事は良いな」と思ってもらえるような工夫もできればよい気がした。

図書館の件については、カードを統一すると、現在の仕組では、市外の図書館からどれだけ貸出があったかが分からなくなる。ただ、令和8年度から県が主導で電子図書が導入される方向となっている。DX化を進める中で、委員のおっしゃるような部分も圏域で統一できるとよいと感じるが、現状では直接人が携わっている部分が多いため、(カードの統一化ができないことへの) ご理解をお願いしたい。

関会長) 効率化が進むとよいと思う。私は南魚沼市図書館の工事に携わったが、当時は、これからDX化が進む中でなぜ図書館を整備するのかという思いもあった。だが、私の子どももよく図書館を利用するので、図書館の空間の良さがあるのだと思う。DX化は進みながらもそのようなスペースは必要なので、自治体間の連携が進むとよいと思う。

委員) 図書館の相互の貸出数は減少傾向にあるが、令和7年度の指標の目標値は現状より高く設定してある。今後の図書館利用の増加への期待も含まれているのかとも思った。

事務局) 目標値の設定の経過として、当初の目標値は10,000冊としていたが、コロナ禍における巣ごもり需要の影響から令和3年度は17,000冊を超えたことから、令和4年度に目標比を見直し、その後減少に転じた。そのため実態と目標値の間に乖離が生じてしまっている。

片桐部長) 南魚沼市の状況として、相互利用の協定を締結して以降、六日町駅前の南魚沼市図書館における魚沼市在住の方の貸出数はおよそ2倍となっており、非常にありがたいことだと思っている。

委員) 福祉などの人材不足の件で、先ほど採用してもすぐに辞めてしまうといった話があったが、若い人が定着しないことにより、年齢の二極化が生じている事業所が多いと感じており、職場の雰囲気は仕事に定着することへの重要な要因だと思っている。人材不足から仕事が忙しく参加が難しいかもしれないが、例えば、若手人材の交流の場を設けるなど、圏域で仕事の悩みなどを打ち明け、共有できる仲間がいると励みになると思った。

片桐部長) そうった場がなくなってきた。かなり前になるが、ハローワークが主導で南魚沼管内の企業の新採用が集まる激励会を開催していた。この会は終わってしまったが、南魚沼市の例では、令和元年度まで「若者まちづくり会議」や「若者ミーティングパーティ」を実施していたが、コロナ禍の影響で終了となり、なかなか再開できない状況にある。異業種間の方が集まって意見を交わせる場はつくるべきだと思うし、同じ年齢層同士の情報交換ができることも重要だと思う。移住定住を進める枠組みの中で考えていけたらよいと思うし、そういった交流の場を圏域で開催できるとよいと思う。

関会長) 是非、復活していただけるとありがたいと思う。私の会社も3年以内に42～43%程度が離職するが、4年以上になると10%弱となり定着する傾向がある。グループ会社間で3年以内の離職をどのように抑えるかについて取り組んでいる。企業のグループ全体で何千人といった中から、1年目、2年目の従業員が数十人集まる会があるなどがあるとよいと思う。

星副会長) 「圏域観光情報窓口事業」でレンタサイクルの内容が追加されたが、南魚沼市では自転車関連の施策を目にする。自分が住んでいる自治体の観光の取組は気付きにくいのもかもしれないが、魚沼市で自転車に関する活動は活発ではない気がしており、地域の温度差があると思っている。観光客に声をかけられた時に、市民が観光の取組を知っていれば案内でき、市民にも観光客にも取組の認知度が広がると思うが、魚沼市民がどの程度取組を知っているか聞いてみたいと思った。

委員) 今期から委員に就任して、インターネットで調べて初めてこの取組を知ったので、(取組が市民に広がっていないことが) もったいないと思った。

片桐部長) おそらく、ウェブサイトでご覧になったのは「雪国魚沼 Golden Cycle Route」などの取組かと思う。これは2市1町と県で取り組んでおり、将来的には国が選定するナショナルサイクルルートへの指定を目指している。共生ビジョンでこのコースの総距離は185kmと記載があるが、最近、湯沢町がコースを延ばして193kmになった。2市1町を八の字で1周するようなコースとなっている。ハード面での取組としては、自転車の走る場所と方向を示した「矢羽根」を道路に引き、コースの整備を行っている。魚沼市は県道を中心に、南魚沼市は県道と一部の市道を整備しているが、湯沢町に比べると遅れている状況である。これから整備が進み、「ここは自転車が通る空間なんだ」ということが視覚的に認識できるようになる。また、デリネーターポールにも、「雪国魚沼 Golden Cycle Route」のロゴを貼り付けたり、コースが分かりにくい

箇所には電柱に看板を設置し矢印で示すといった取組を行っている。こういった取組が進めば、市民に対する見える化も進んでくると思う。昨年、2市1町で統一して広報誌で取り上げたが、南魚沼市では年度内に同じ内容を市報に掲載しないことを原則としている。私としては繰り返し周知をしたい気持ちがあるので、例えば、デリネーターポールにロゴを貼り付けたことなど、(同じ自転車に関する取組でも) 切り口を変えて、市報などで周知する取組もしていきたいと思う。

事務局(魚沼市) おっしゃるように、(自転車の取組は) 魚沼市民にとっての知名度は低いのではないかと感じている。南魚沼市と同じく、魚沼市の市報でも年度内に同じ内容の掲載しないこととしている。市報でのPRに限界はあるが、せっかく来てくれた観光客の質問に答えることができないことは困ったことだと思うので、知名度を広げるような取組ができないか担当課にも伝えたいと思う。魚沼市だけではなく、圏域として広報していくべきことだと思うので、ワーキンググループでも検討してもらいたいと思う。

関会長) 南魚沼市の市制施行10周年を機に、自転車によるまちおこしができないかという機運が高まり、今では千人規模のイベントになったグルメライドの実施や、プロのレースも誘致するなど、元々は2、3年で終わる想定だったが、好評で今でも継続している。さらに盛り上げていこうということで、ナショナルサイクルルートの指定に向けた取組に波及してきた経緯がある。六日町中心の取組から南魚沼市全体に広がり、やっとプロの合宿地の誘致が実現した状況なので、こうした取組が湯沢町や魚沼市に波及するまでにはまだ時間がかかると思う。

他のご意見などはいかがか。共生ビジョンの変更点については、皆様から了解をいただけたということによろしいか。

(委員同意)

関会長) 委員からの意見は、反映できる部分は反映いただきたい。それでは議事が終わったので、進行は事務局にお返しする。

【5】その他 (進行:事務局 小林行革主幹)

(1) 魚沼地域定住自立圏の今後について

事務局) 議事では第2期魚沼地域定住自立圏共生ビジョンの変更案についてのご意見を頂戴したところだが、ここからは今後の魚沼地域定住自立圏について自由なご意見をお願いしたい。

星副会長) 資料1の「廃棄物処理等広域連携事業」について、「小学生から一般市民を対象とした啓発活動を継続する」とあるが、今までの具体的な取組について伺いたい。

片桐部長) コロナ禍が落ち着いてから、小学生にごみ焼却場の見学に来てほしいといった話をしている。その中で、これだけの量のごみが出ていることを生で見て感じてもらい、(小学生に) 会議室に入ってもらい、子ども達に問いかけるような形で、身近なことからごみを減らせる方法などについて考える機会を設けている。そこで得た子ども達の気づきから、ごみの減量化に取り組んでほしいということで進めている。

星副会長) それは社会科の授業で小学校4年生くらいが対象になっているもので、啓発活動におけるメインの取組との認識でよいか。

片桐部長) そのとおりで、社会科見学として実施している。

星副会長) 「路線バス支援事業」について「実証実験として運行を開始した」とあるが、現在はどのような状態になっているのか。

事務局) 実証実験として令和3年10月から基幹病院への乗り入れを開始し、現在も継続している。

片桐部長) 現在の状況に対して言及されていないため、表現を見直した方がよいと思う。

委員) 今、学校の統廃合が進んでおり、湯沢町では湯沢学園のみとなり、教育の選択肢が狭まっていく中で、より不登校につながりやすい現状があると思う。これまで湯沢町では不登校の子どもをサポートする機関がほとんどなく、南魚沼市では子ども・若者相談支援センターはあるが、湯沢町の子どもは利用できないといった実態がある。魚沼市の適応指導教室でもいろいろな活動をしていると承知している。圏域として、良いもの、良い場所を共有できるような仕組みができるとよいと思っている。

片桐部長) ハード面の話をすると、南魚沼市の子ども・若者相談支援センターは、旧塩沢町にあるので、旧大和町の住民にとっては利用しにくいといった意見もある。そういった課題がある中で、市町をまたがってしまうと利用しにくいと感じる方が

さらに増えるのかと思っていたので、委員がおっしゃる仕組みに今まで思いが至らなかった。自治体間の負担の協議が必要だが、希望者がいるなら門戸を広げる協議もしてみたい気持ちはある。教育委員会同士で、どの程度の需要があるのかをリサーチしながら話し合いを進めていってもらおうと思う。実際そのような需要はあるのか。

星副会長) 魚沼市でも、市内の適応指導教室に通うには抵抗があるという理由で、南魚沼市の子ども・若者相談支援センターに行きたいと思う方もいたことがあり、一度、問合せをしたことがある。ただ、教育委員会は自治体単位であることなどから、(他自治体の利用者の受入は) 難しいとのことだった。利用者の中には、通っている学校の知り合いに会うのが嫌だと感じる人もいたり、親御さんの勤務先の関係など、他自治体の支援を希望する声は実際にある。

片桐部長) 南魚沼市内でもそういった声はある。ただ、施設から遠い場所に住んでいる場合、親御さんが余程熱心でない限り長続きしない傾向にある。月1回程度の利用で子どもが満足していればよいが、大人が望むような成果はなかなか出ない状況である。

星副会長) 子ども・若者支援センターも、今の場所に移転する前から、施設までバスやタクシーを出してほしいなどの要望もあったが、(自宅と施設の距離が遠いことなどから) 定期的に通える子どもではないので、そのために空のバスを運行するのも難しいといった課題もある。ただ、市外の施設であっても、子どもの気持ちが、そこに通える、通いたいという思う気持ちが生まれるのであれば、毎回でなくても、お試しのような形で通える仕組があってもよいとの思いがある。

片桐部長) 昨年度まで教育委員会にいたが、南魚沼市の子どもで魚沼市の施設を利用したいといった声は聞いたことがなかった。

星副会長) (親御さんや子どもにとっては) 学校が主な情報源となるので、他の自治体の施設を利用したいといった考えに至りにくい。私は学校支援者としていろいろな学校を回り、様々な支援を紹介する中で、他自治体の施設や、取り組みを知っていて伝えられたらと思っても、それが利用できないとなれば情報提供はできないので、他自治体の支援の形を知らない方は多いと思う。

片桐部長) 教育委員会と相談させていただく。

事務局) ご意見は既存の連携事業の改善や新規事業検討の参考とさせていただくため、ワーキンググループや事業担当課に情報共有をさせていただく。

事務連絡 (説明: 事務局 小林行革主幹、由良主任)

【5】閉会 (関会長)

令和8年度には第3期共生ビジョンを策定することになる。合併直後は南魚沼市の人口は6万以上で、さらにもう10年前は塩沢町、六日町、大和町の3町の人口の7万人だった。(2040年の圏域の将来推計人口によると) 2市1町の人口は7万人になり、今後、この人口規模のマンパワーと予算で行政サービスを維持する必要がある。

2市1町がそれぞれフルセットの行政サービスを完璧に維持するのは、今後の人口減少を考えると現実的ではないことから、医療、教育、スポーツ、観光などの拠点を定めた都市構想をつくっていく必要があると考えている。国土交通省が「空飛ぶクルマ」に関する計画を策定しているように、今後、時間的な距離が縮み、「時間のコンパクトシティ」が実現するようになる。将来的には、多少、拠点が固まり、居住地から拠点までの距離が離れても、時間的な距離が近くなる。今後の人口減少を見越した現実的なまちづくりについて今から考えていくことが必要になると思う。委員の皆様から様々なご意見をいただきながら、行政とともに良いまちづくりを進めていきたいので、今後ともご協力をお願いしたい。

(12時閉会)